

「世界を感じて 日本を見つめて」

大村 伸

相模原市立鶴の台小学校

◆担当教科：－

◆実践教科：総合的な学習の時間

◆時間数：19 時間

◆対象学年：5年生

◆対象人数：116名（3学級）

○実践の目的

- 資料や映像、教師の話をもとに、タンザニアやタンザニア人に目を向け、開発途上国の現状や先進国と開発途上国の関わりについて理解を深める。
- スカイプを活用し、お互いの文化を紹介し合う活動を通して、自分たちの生活を見つめ、今後の自己の生き方について考える。

○授業の構成

| 時限 | テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|-------|---|--|--|
| 1 | テーマ：「アフリカってどんなところ？」 ねらい：アフリカの現状を知り、世界に興味を持つ。 | JICA国際協力出前講座を利用し、青年海外協力隊OGの方から話を聞く。 | ・世界地図 ・パワーポイント ・カンガ |
| 2 | テーマ：「タンザニアと出会う」 ねらい：タンザニアの現状を知る | 「タンザニア〇×クイズ」 クイズをしながら撮影してきた写真とビデオ動画でタンザニアについて知り、気付いたこと（アフリカに対する偏見、先入観など）を共有する。 | ・パワーポイント ・〇×カード ・ワークシート |
| 3～6 | テーマ： 「開発途上国が抱える問題」 ねらい：貿易ゲームを通して、先進国と開発途上国の関係について考えを深める | <ul style="list-style-type: none"> ● ワークショップ「貿易ゲーム」 ● 貿易ゲームを振り返り、世界の不平等について考える。 ● 貿易のあり方・援助のあり方について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・貿易ゲームセット 〈製品見本図・はさみ・定規・コンパス・三角定規・分度器・紙・お札・鉛筆〉 ・ワークシート |
| 7.8 | テーマ： 「世界で活躍する日本人」 ねらい：タンザニアで活躍する日本人の存在を知り、彼らの生き方を考える | タンザニアでのJICAの活動（水、教育、道路セクター）・青年海外協力隊の活動を説明する | ・ワークシート |
| 9.10 | テーマ： 「タンザニアが抱える問題」 ねらい：タンザニアが抱える問題及び可能性を知る | <ul style="list-style-type: none"> ● タンザニアの携帯電話事情を知り、その将来について、日本と比較しながら考える。 ● 「水？ 電気？ 道路？」タンザニア人にとってのライフラインを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・現地の写真 ・ワークシート |
| 11.12 | テーマ：「日本を見つめよう」 ねらい：タンザニア人から見た日本人イメージを知り、日本について日本人について考える | <ul style="list-style-type: none"> ● タンザニア人から見た日本人イメージを知る。 ● 日本について日本人について再認識する。 | ・ワークシート |

| | | | |
|---------------|---|--|--|
| 13 ～ 19 | テーマ： 「タンザニアの小学生と友達 になろう」 ねらい：タンザニアの学校とス カイプを使って交流授業をす する | <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学習を踏まえ、タンザニアの子どもに伝えたい内容を決める ● プレゼン内容をグループでまとめる ● 交流授業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・skypeセット 〈PC・webカメラ・集音マイク・プロジェクター〉 |
|---------------|---|--|--|

◆ 授業の詳細

1時限目 「アフリカってどんなところ？」

ねらい：アフリカの現状を知り、世界に興味を持つ。

本海外研修参加前の7月、JICA国際協力出前講座を利用し、青年海外協力隊OGの方からアフリカの開発途上国について話を聞く。乳幼児死亡率・食生活・住居などタンザニアに限定せず、アフリカ諸国の概要を説明してもらい。そしてこの夏休み私がタンザニアへ行くことを話し、2学期への期待に繋げる。

2時限目 「タンザニアと出会う」

ねらい：タンザニアの現状を知る。

「タンザニア〇×クイズ」

気温は
ほとんどいつも
30℃以上である

- ・タンザニアにはスーパーマーケットがある
- ・タンザニアの人々は、みんなダンスが大好きでとても上手に踊る
- ・幹線道路でも、ゾウ、キリン、シマウマなどに会うことがある
- ・人々は毎食、トウモロコシの粉をこねた「ウガリ」を食べている
- ・子ども達は制服を着て学校に通っている
- ・街中にいつも音楽が流れている
- ・マサイ族の人々は都市には住まず、草原で暮らしている
- ・道路工事は、機械を使わずすべて人力で行っている
- ・新聞は2種類しかない
- ・ジュースやアイスクリームはすべて輸入品
- ・大人は8割くらいの方がケータイを持っている
- ・地方都市でもワイヤレスでインターネットが利用できる
- ・タンザニアの人々は、自分たちの国を、貧しいとは思っていない
- ・外国人に写真を撮られるのを嫌がる人がいる

- ① タンザニアに関することが書かれた17枚のカードを、4、5人のグループで話し合いながら、「正しい〇」「間違っている×」の2つに分ける。
- ② 各グループの答えと、「なぜそう考えたのか」を聞き、正解とその理由・背景（タンザニア人の価値観）を撮影してきた写真とビデオで説明する。
- ③ クイズをしながらタンザニアについて知り、気付いたこと（アフリカに対する偏見、先入観など）を共有する。



立ち並ぶ高層ビル



町で売られているいくつもの新聞



スーパーマーケット

3～6時限目 「開発途上国が抱える問題」

ねらい：貿易ゲームを通して、先進国と開発途上国の関係について考えを深める。

- ① ワークショップ「貿易ゲーム」（2時間）
- ② 貿易ゲームを振り返り、世界の不平等について考える。（1時間）
発問「なぜ先進国チームは豊かになり、開発途上国チームは貧しくなったのか。」
- ③ 貿易のあり方・援助のあり方について考える。（1時間）
発問「どうすれば不平等がなく、みんなが楽しく貿易ゲームを進行できるだろうか。」
発問「みんなが考えたルールの中で、実際の貿易でも使えそうなルールはあるかな。」

ワークシートより

- 本当の世界でも日本やアメリカのような技術を持った先進国が途上国に技術を教えれば、途上国も暮らしが少し楽になると思います。今後は貧しい国へ送る募金などがあったら参加しようと思います。
- 本当の貿易こそ、世界みんなで話し合っ、みんなが良い暮らしになればいい。
- このゲームをして貿易が大変なのに気づいた。貿易ゲームみたいにルールを何か変えれば、ちょっとは先進国と途上国の差が縮まると思いました。



貿易ゲーム 授業の様子

7・8時限目 「世界で活躍する日本人」

ねらい：タンザニアで活躍する日本人の存在を知り、彼らの生き方を考える。

タンザニアで実際に行っているJICAの活動（水、教育、道路セクター）を説明する。また訪問先で会った谷村隊員や横山隊員を例に青年海外協力隊の活動を説明する。



谷村隊員が校舎に描いたタンザニアの地図



教員養成学校で授業をする横山隊員



日本タンザニア共同でできた水道施設

9・10時限目 「タンザニアが抱える問題」

ねらい：タンザニアが抱える問題及び可能性を知る。

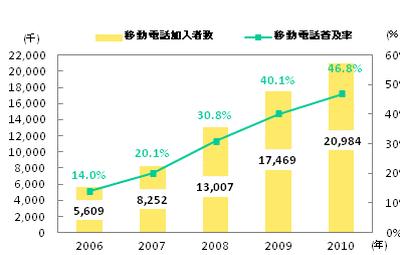
① 携帯電話

電気・水道が通っていない農村でも多くの大人は携帯電話を持っている。子どもの所有率はまだ低い
が、近い将来携帯電話が様々な年齢層に広がっていくことは確実であろう。フォトランゲージを行い、
タンザニアの携帯電話事情を知り、その将来について、日本と比較しながら考えた。携帯電話がタン
ザニアに何をもたらすのか考えながら、同時に自分の国における携帯電話の良い点悪い点を考える授
業を行った。

発問「急速に広まりつつ情報ツールがタンザニアに何をもたらすのか、またその理由は？」

ワークシートより

- アプリ関係の会社ができ、携帯産業が生まれる。また電気が広がり生活が豊かになる。
- 町と町の距離が長いから、携帯が広まれば、通信手段ができ距離が縮まる。
- インターネットでPRができ、地方都市の地域活性化に繋がる。都市と地方の差が小さくなる。
- 日本と同じような犯罪が多くなる。犯罪に巻き込まれる。
- チェーンメールやメール内でのいじめが起きるかもしれない。



タンザニアの携帯電話加入者数と普及率の推移

日本の子どもの携帯電話所有率

イリンガの携帯ショップ



携帯を操作する青年



スマートフォンの広告（ダルエスサラーム）



携帯会社の広告（イリンガ）

② ライフライン

○村の状況を確認する。

「タンザニアの村を訪ねました」といって、イリンガ郊外の村の写真を何枚か見せ、村の状況を説明する。



こんな村でした…

- ・農業に携わる人が多い
- ・小さな子どもも牛を追って働いている
- ・道は土で出来ていて、雨期になると、ところどころ、車が通れなくなる
- ・町まで32km、車で約2時間、歩くと8時間かかる
- ・道路がアスファルト舗装されれば、町まで時間でいけるようになる
- ・村には、マイクロバスが2台ある
- ・村でバイクを持つ人は数人だけ
- ・村には電気は通っていないが、ソーラーパネルを持っている家が数軒ある
- ・村人の8割は携帯電話を持っている

○村の様々な立場の人の考えを聞く

村の人たちに、「今、この村に必要なものは、水（水道・安全な水）、電気、舗装道路のうち、どれか」と訊ねたところ、それぞれの人からつぎのような答えが返ってきたという話をする。

農夫



小学校の校長先生



水省 (Ministry of Water) の技術者



農夫

「『道路』です。ちなみに今、ほしいモノは、オートバイ。道路が良くなれば、遠くの町まで楽に行けるようになる。町まで野菜を売りに行くこともできる。道ができて人が行き来することで、モノや情報が動き、村は徐々に発展していく」

小学校の校長先生

「まずは『電気』だな。都会では、誰もパソコン、インターネットを使っている。これからは小学校でもIT教育が必要。でも、学校には、電気もパソコンもない。机のない教室もあり、子ども達は床に座って授業を受けている。子ども用のトイレが壊れていて、1つしか使えない。その1つも、今にも床が崩れそうで、危ない。学校の近くに井戸があるので、水は一応、手に入る」

水省 (Ministry of Water) の技術者

「『水』です。井戸から水をくむのではなく、水道の普及が必要。水が悪いと、下痢や赤痢など、ウィルス性の病気にかかる確率が非常に高くなる。道路や電気とちがって、水は命に関わる問題。自分にも2歳の息子がいるので、切実にそう感じている」

○グループで話し合う

発問「村に必要なのは、水道、電気、舗装道路のうち、どれか、またその理由は？」

ワークシートより

- 水です。水は生きていくために必要なもの。水省の方が言っていたようにきれいな水があれば病人が増えなくてすむから。
- 舗装道路です。雨期の時に野菜を他の村に運び、商売をすれば売り上げが高くなり、村が発展して電気も通るようになる。近くに井戸があるから水はいらない。
- 水です。井戸があってもそれが安全かわからないし、その汚れた水を飲むと病気になってしまうから。

11・12時 限目 「日本を見つめよう」

ねらい: タンザニア人から見た日本人イメージを知り、日本について日本人について考える。

① タンザニア人から見た日本人イメージを知る。

発問「大村先生がタンザニアへ行ったときに、訪れた色々な場所（教員養成学校・中学校・小学校など）で同じような質問を受けました。それはどのような質問でしょうか。」「日本は・・・?という形で教えてください。」

説明「正解は『日本はどのようにして経済発展できたのですか』です。」

② 日本について日本人について再認識する。

発問「ではこの質問に対して、あなただったら何と答えますか？」

自分の考えをワークシートに書き、発表する。友達の意見をワークシートに写す。家族に聞いてくる。聞いてきた家族の意見を発表する。

発問「この質問にあなただったらどのように答えますか。これまでの色々な人の意見を参考に最後に自分の考えを書きましょう。」

ワークシートより

- 日本人は勤勉、まじめ、器用、頭が良いという部分があったので、外国から来たものをまねて、更に良い物にした。日本人は努力し、諦めなかったから経済発展できたと思う。
- 終戦後、日本人は他の国の良いところを学び、その学んだことを朝から夜まで日本人特有のまじめさと器用さをいかし戦争の辛さを忘れずに頑張って良くしていったから。

13～19時限目「タンザニアの小学生と友達になろう」

ねらい：タンザニアの学校とスカイプを使って交流授業をする。

① これまでの学習を踏まえ、タンザニアの子どもに伝えたい内容を決める。

② プレゼン内容をグループでまとめる。

- ・ 日本の子どもの一日・日本の歴史
- ・ 四季・学校行事・日本固有の生き物
- ・ 伝統工芸（箱根）・日本の食べ物

以上のテーマでグループごとにプレゼンの準備を進める。市内在住のタンザニア人の方に通訳に入ってもらうが、パソコンの翻訳ソフトを駆使してスワヒリ語を調べるなど、できる限り子どもだけの力でプレゼンの準備をした。



③ 交流授業



ワークシートより

- 他国とスカイプで繋がるといことはその国の文化を知り、その良いところを私たちの生活に取り入れてみることができることが良いと思います。なのでまたスカイプをやってジテゲメエ小学校でよくやっている遊びをもっと知りやってみたいと思いました。
- 「将来の夢は何ですか」と聞いたとき、「医者」「先生」と答えてくれました。そこで日本の小学生もタンザニアの小学生も同じような夢を持っていることがわかりました。
- タンザニアとスカイプで繋がってうれしかったです。スカイプでスクリーンに出たときは、今、世界が繋がっているんだなあと思いました。
- ジテゲメエ小学校の子ども達も明るく元気なのは日本の子どもとも同じだと思った。
- 少し貧しいのにすごく元気だったから驚いた。

◆ 成果と課題

従来の開発教育によくある開発途上国の貧困について説明し、みんなで彼らを助けよう、募金をしよう、で終わるような単元にはしたくなかった。そのために単元全体を通して心掛けたことは二つあり、その一つは、良いことも悪いことも含め、自分が感じたタンザニアを全て伝えることである。ステレオタイプに貧困を強調し過ぎるべきではないし、逆にタンザニアについて子どもにネガティブに伝わってしまうことを危惧し、美化し過ぎるのも良くない。撮ってきた写真やビデオを使い、見た目の違いだけでなく、タンザニアと日本の価値観の違いも説明してきた。

もう一つは、タンザニアを知るのではなくタンザニア人を知ることである。そのために国の概要よりもタンザニアの人が何を思い、何を感じているかが伝わる授業を組み立てた。この「タンザニア人」を知るうえで大きな役割を果たしたのが、スカイプを使っでの交流授業である。同じ年の子どもが何を考えているか、日本をどう思うか、夢は何か・顔を見ながら会話できたことは、日本の子どもにとっても、タンザニアの子どもにとっても、その国の人を知る上で意味があった。

この「世界を感じて 日本を見つめて」の単元を終えて、子ども達はタンザニアに対してどのような感想を持ったのだろうか。その結果が単元最後の授業後の子どもの感想によく表れている。子ども達の感想を総じて言えば「貧しいけど明るく元気。友達になりたい。」である。

この感想を読む限り、目的は十分達成できたと思う。募金という直接的な援助には繋がらないが、今回の授業を受けた子ども達が開発途上国の現状を知った上で、その国民に好意を持ったことに大きな意味がある。このような子どもが増え、彼らが大人になれば、世界は少しだけ良くなるはずである。